

平成30年度 山村活性化支援交付金事業実施評価書

1. 事業名 平成30年度 山村活性化対策事業

2. 事業実施主体名 坂本町山村活性化協議会

3. 事業概要

・事業目的

当該地域の基幹産業である農林水産物を地元の農家レストランや食品加工、学校給食等の原材料として活用することで、地域内経済循環を高め地域経済の活性化を図ることと、都市農村交流の拠点とした農家レストランの整備や冷凍技術を活用した地元農林水産物の加工品の新たな流通体制を構築することにより、農村全体の所得の向上と雇用の創出を目的とする。

・事業費・交付額(単位:円) 事業費 10,000,000円 交付額 10,000,000円

・事業実施期間 平成30年5月28日 ～ 平成31年3月31日

4. 実績評価

(1) 目標の達成状況等の総合的評価

平成30年度の事業について、【資源発掘部門】では、「農事組合法人鶴喰なの花村」を栽培農家に選定し、4ほ場2,979㎡を借り受けるとともに今後の栽培作物の選定を行い、ワラビ園、コサン竹林の整備を行った。

【販売流通部門】では、ぼたもち、鮎などの冷凍加工品としての商品化について、冷凍技術実証実験を実施するとともに試験販売を行った。

【農家レストラン部門】では、レストラン開業に向けてのメニューづくりや接客等の研修を実施するとともに、プレオープンイベントを開催した。

事業目的の達成のため、関係機関と連携を取りながら、着実な事業推進がなされ、実施計画どおりの進捗である。特に「販売流通部門」においては、前倒しで目標を達成している状況である。

(2) 取組状況

【資源発掘部門】

・年間2回の会議を実施し、栽培農家及び試験ほ場を選定するとともに、栽培作物の検討を行い、ワラビ、タケノコ等の山菜類、ぼたもち用のサツマイモを栽培作物として選定した。

【販売流通部門】

・年間5回の会議・試作会を実施し、商品化が可能であることを確認するためぼたもち、鮎の加工品を中心に冷凍技術実証実験を実施した。

・商品化実現のため、坂本ふるさとまつりやプロモーションin九州広場等のイベントに参加し、冷凍ぼたもちの試食会とあわせてアンケート調査を行うことにより、改善点の検討等を行った。

・KAB駅前フェスタ2019に出店し、完成した冷凍加工品「棚田からぼたもち」「鮎の甘露煮」「鮎の一夜干」の試験販売を実施した。

・県のフードバレーアグリビジネスセンターと連携し、「食処さかもと鮎やな冬の贈りもの」を試作し、限定販売を行った。

【農家レストラン部門】

・年間9回の会議・試作会を実施し、レストランの運営方針及び季節ごとのメニュー開発等を行った。

・都市農村交流として、関係機関と連携し、県の「くまもと農と観光モニターツアー」や市の「農家レストランばあちゃんち日帰りモニターツアー」を受け入れ、農産物の収穫などの農業体験をしてもらうとともに、農家レストランを限定オープンする等の事業に取り組んだ。

(3) 事業実績

【資源発掘部門】

栽培農家として「農事組合法人鶴喰なの花村」を選定するとともに、試験ほ場として4筆、2,979㎡を借り受け、次年度の栽培を考慮した耕起、土作りを行い、ワラビ園、コサン竹林の整備を実施した。

栽培作物については、ぼたもち用のサツマイモを試験栽培することを決定しており、今後も、その他山菜類を中心に、関係機関と連携しながら、栽培作物の検討を進めていく。

【販売流通部門】

冷凍加工品「棚田からぼたもち」「鮎の甘露煮」「鮎の一夜干」の3品目を商品化し、パッケージデザイン、販売促進のためのグッズ等も完成させるなど、目標を前倒しで達成した。

「食処さかもと鮎やな冬の贈りもの」については、四季の贈りものとして内容充実させるため、新規商品開発を進めていく。

【農家レストラン部門】

レストランの名称を「農家レストランばあちゃんち」と決定し、フードコーディネータの指導のもと、四季のメニュー4種類を完成させるとともに、モニターツアーの受け入れ等を実施した。

モニターツアーの際に実施したアンケート調査の結果も、非常に高評価であり、今後も本格的なオープンに向けた取組を進めていく。

(4) 実施体制

坂本町山村活性化協議会の中に【資源発掘部門】【販売流通部門】【農家レストラン部門】の3つの専門部会を設置しており、関係機関である熊本県、フードバレーアグリビジネスセンター、八代市、八代地域農業協同組合と連携しながら、事業を実施している。

(5) その他事項

特になし

5. 事業実施結果

・目標達成状況

指標	目標値	実績値	達成率
販売額、雇用等に関する指標			
新規雇用人数(人)	0	0	-
新規事業に伴う所得の向上(千円)	0	0	-
加工品開発数(種類数)	0	3	300%

(計測方法)

・所見 元JAやつしろ営農部長 平野和臣

元八代市農林水産部長 橋口尚登

平成30年度事業については、順調に進捗しているものと評価する。

今後、【資源発掘部門】においては、試験ほ場で作付けした農産物の安定した出荷及び利活用のための取組の推進、【販売流通部門】においては、加工品3品が商品化されていることから、さらなる販売促進のために「一般社団法人さかもと」との連携を強化するとともに、安定的な販売先の新規確保も重要であると考え。【農家レストラン部門】においては、提供メニューの開発等を継続していくとともに、店舗として「坂本温泉センター憩いの家」の活用を検討するなど、関係機関との連携を密にし、レストランの本格オープンに向けた課題解決を図っていただきたい。

補助事業終了後の事業継続が最も懸念される所であり、今後も、事業目的の達成に向けた、体験ツアー、試食・販売会、新規商品の開発等、これまでの取組を継続・充実させていくとともに、例えば、後継者の育成にも繋がるような事業の展開等、補助事業終了後を視野に入れた取組についても検討していただきたい。